

会 議 録

1 会議名

令和6年度第5回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 自主的な審議 (公開)

- ・団体との懇談会の開催結果及び今後の取組について
- ・まちづくりフォーラムについて

(2) その他 (公開)

3 開催日時

令和6年9月17日(火) 午後7時00分から午後8時12分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・ 委 員：吉井一寛(会長)、中村誠(副会長)、石田一久、金子豊彦、小出祥世、小関信夫、小山慶、坂木朋子、佐藤達弥、佐藤昌貴、佐藤まゆみ、滝澤正芳、蓑輪和彦、山川昌恵
- ・ 事務局：柿崎区総合事務所 新部所長、松崎次長、石澤次長、五十嵐産業グループ長、宮崎建設グループ長、石川市民生活・福祉グループ長、長井地域振興班長、大場副主幹

8 発言の内容(要旨)

【松崎次長】

- ・ 地域協議会の開会を宣言。

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に小山慶委員を指名。
- ・次第 4 の自主的な審議に入る。(1)団体との懇談会の開催結果及び今後の取組について協議する。先日、柿崎観光協会、柿崎商工会、NPO 法人柿崎まちづくり振興会の 3 団体とそれぞれ懇談会を開催した。各班から懇談会の開催結果の報告をお願いする。

【小出委員】

- ・1 班は、9 月 3 日に柿崎観光協会と懇談会を行ったので、主な意見を報告する。観光協会では役員の固定化、高齢化と人員不足に大変悩んでいる。イベントを開催するにも、準備、運営、後片付けの負担が年々重くなり、イベントの補助人員の手配方法を検討してほしいと要望があった。
- ・次に、柿崎山岳会の解散が課題として挙げられた。柿崎山岳会は、令和 8 年 3 月に解散することがすでに決定しており、解散後の米山登山道の整備、山頂のトイレや避難小屋の管理方法が喫緊の課題だと発言があった。
- ・柿崎区の人々は米山を重視しているが、上越市の中では米山が重視されていないという意見があり、発信力の強化が必要だと提案があった。また、城山は観光資源としての歴史的な価値はあるが、管理のことを考えると発信や予算化は難しいと話していた。
- ・観光協会の意見を踏まえると、柿崎山岳会解散後の登山道等の維持管理と魅力発信の対応が、柿崎区として取り組まなければならない喫緊の課題と考えたので、自主的審議事項のテーマに提案する。

【小関委員】

- ・私も、柿崎山岳会の解散が最も大きな課題として受け止めた。

【吉井会長】

- ・4 年前にも観光協会と懇談会を行ったが、当時は山岳会や米山の話は一切なか

った。ともかく柿崎山岳会解散後の対応が喫緊の課題だと実感している。

- ・次に、柿崎商工会との懇談会の結果報告をお願いする。

【小山委員】

- ・2班は、9月5日に柿崎商工会と懇談会を行ったので、概要を報告する。商工会との懇談会では、商売につながる問題が多く出てくると思っていたが、柿崎区の全体的な問題点を心配する声が多かった。
- ・具体的には人手不足、高齢化による問題が多いと感じた。「中心商店街の人の流れが少ない」「イベントの運営スタッフが不足し、実働する役員の負担が大きい」「役員だけでなく、住民も行事運営に参画できる仕組みが必要ではないか」等の発言があった。さらに、柿崎山岳会解散後、山岳会の活動に代わる枠組みが必要であるとの指摘があった。
- ・課題解決に向けての対応策、アイデアとしては、柿崎のシンボル「米山」を守るという意見があった。柿崎山岳会がこれまで担ってきた役割を継承する枠組みを作り、「米山の魅力をSNS等で情報発信する」「米山の歴史や価値を学ぶ、高める、伝える活動を行う」といった対応策が挙げられた。
- ・また、柿崎運動公園を魅力あるスポーツ集中エリアとして、野外施設を整備し魅力を高めたらどうかというアイデアが出た。地域住民の運動環境を整え、健康増進の機会の増加や、インターチェンジからも近く利便性がよいことから市内外、県内外のスポーツ団体の利用、大会誘致が見込まれるといった発言があった。
- ・その他に、移住・定住の促進や旧運転免許センター上越支所敷地の利用方法、上越地区産業廃棄物最終処分場整備の対応などの意見があった。
- ・2班は、ないものを作るのではなく、あるものをより良くして魅力ある地域にしたいとの考えから、柿崎運動公園を魅力あるスポーツ集中エリアにを自主的審議事項のテーマとして提案する。

【金子委員】

- ・根本的には人手不足、後継者不足が問題と考えた。自主的審議事項のテーマを決めるにあたっては、マイナス要素がたくさんある中で、マイナスのものをプラスに転じることは相当な体力と資金が必要となるので、今ある運動公園を中心に柿崎区をスポーツの町として売り出すことも一つの手だと思った。

【吉井会長】

- ・最後に、NPO 法人柿崎まちづくり振興会との懇談会の結果報告をお願いする。

【菟輪委員】

- ・3 班は、9 月 11 日に NPO 法人柿崎まちづくり振興会と懇談会を行ったので、主な内容をお話する。柿崎まちづくり振興会は、住みよい地域、地域の活性化を目標に、さまざまな活動に取り組んでいるので、そのことを中心に発言があった。米山のブランド化と地域経済の関係、農業と企業の技術の P R、保育園の統廃合の問題、空き家対策、柿崎まちづくり振興会への支援と多くの課題が挙げられた。
- ・その中で、3 班は自主的審議事項のテーマとして 3 項目を提案する。一つめは、移住者、地域、地域団体の新たなネットワークの構築についてである。柿崎町のときには、さまざまな団体が活発に意見交換を行う場があり、多くの問題意識を持っていたと聞いた。また、移住者同士のつながりがないという意見があったことから、移住者、地域、団体とのネットワークの構築が必要と考えた。
- ・二つめに、地域の先進的な農業の取組や優良企業の情報発信についてである。柿崎区内で非常に先進的なスマート農業に取り組んでいる団体がある。さらに、素晴らしい技術を持った企業もたくさんあるので、柿崎の魅力の一つとして発信することが大切だと感じている。
- ・三つめは、行政からの住民組織への活動、財政面での支援についてである。今後、行政だけでなく、地域協議会を含め団体、組織同士の協力支援が得られないかと思っている。

【山川委員】

- ・柿崎町時代にネット柿崎があった。さまざまな団体が参加し、横のつながりがあったが、今はそういう機会がない。いろんな目線を持って、柿崎区の課題を見つけ解決していくことは、とても必要なことだと考えている

【吉井会長】

- ・懇談会は、この 3 団体だけではなく他の団体とも実施するが、今回の懇談会の結果を踏まえて自主的審議事項のテーマをまず絞り込みたいと思っている。一つは、1 班から提案があった柿崎山岳会解散後の登山道等の維持管理及び魅力発信、もう一つは 2 班から提案があった柿崎運動公園を魅力あるスポーツ集中

エリアにを自主的審議事項のテーマとしたい。

- ・3班からは三つのテーマの提案があったが、行政からの住民組織への活動、財政面での支援は、地域協議会の審議には適さない課題だと思われる。今後、柿崎まちづくり振興会と協議しないと進められない。また、地域の先進的な農業の取組や優良企業の情報発信については、今後、農業団体との懇談会を予定しているので、懇談会終了後にテーマにするかどうかを検討したい。そこで、3班から提案があった中からは移住者、地域、地域団体との新たなネットワークの構築をテーマとする。
- ・この三つのテーマを自主的審議事項とし、それぞれ委員会を立ち上げる。

【小山委員】

- ・自主的審議事項のテーマの一つに、柿崎山岳会解散後の登山道等の維持管理及び魅力発信がある。今、小出委員が進めている明日へつなぐ事業検討委員会でも、米山を核とした地域活性化を検討しているが、自主的審議事項のテーマとは別に協議を進めていくのか。

【吉井会長】

- ・明日へつなぐ事業検討委員会は、委員改選に伴い小出委員1人で取り組んでいる。小出委員から協議経過の報告をお願いする。

【小出委員】

- ・明日へつなぐ事業検討委員会は、地域独自の予算事業の事業提案を目指して協議を進めてきたが、団体を立ち上げて、会則を作り、予算化するまでには至らなかった。今、慌てて予算化するよりも、長く継続できる団体を作っていこうと考えている。今後、皆さんと相談しながら進めていきたい。
- ・また、明日へつなぐ事業検討委員会は、米山のブランド力を高め地域活性化を目指しているので、地域独自の予算事業を提案するだけでなく、自主的審議事項につなげていくかどうかについても検討し詰めていきたいと思っている。

【吉井会長】

- ・来月開催の地域協議会において、自主的審議事項のテーマ別に委員会を立ち上げるので、合わせて明日へつなぐ事業検討委員会の進め方を協議する。よろしいか。

(「はい」の声)

- ・今後、テーマ別に委員会を立ち上げて調査、研究、協議を行う。委員会を立ち上げるにあたり、委員から希望するテーマを募る。次回の地域協議会開催の案内文書に、希望するテーマの記載用紙を同封するので、地域協議会当日に持参願いたい。副会長と私が委員会の構成を調整する。よろしいか。

（「はい」の声）

- ・次に、今後の団体との懇談会の予定を説明する。町内会長連絡協議会との懇談会は11月から1月に予定している。先月開催の地域協議会において、委員を5班に分けて5地区で分担し懇談会を実施することを決めたので、委員を3名ずつ5班編成した。よろしいか。

（「はい」の声）

- ・小出委員から、懇談会を行う団体の提案がある。説明をお願いします。

【小出委員】

- ・子育て中のお母さんたちから相談があった。皆さんは地域の良さとか、伝統とか、自然とか、そういった地域の力を子育てに活かしていきたいという思いを強く抱いている。新しく建設される保育園の子育てひろばや空き家のほか、将来小学校が統合された場合、校舎も空くので、活動場所や実施方法などを意見交換し、お母さんたちの力を地域に活かしていきたいと思っている。
- ・また、地域協議会は、お母さんたちの思いや考えを行政につなぐという橋渡しのことができると考えているので、声を聞くために懇談会の開催を提案する。

【吉井会長】

- ・若い女性の皆さんはいろいろな悩み、アイデアを持っているので、私も懇談会を行いたいと思っている。
- ・先日、3団体と懇談会を行った班で、農業団体、漁業組合、子育て中のお母さんの団体のうち1団体ずつ受け持ってもらいたい。農業団体は3班、漁業組合は2班、子育て中のお母さんの団体は1班にそれぞれお願いしたいが、よろしいか。

（「はい」の声）

- ・各班のリーダーは事務局と日程調整し、3月までに団体と懇談会を行うこととする。
- ・その他に意見、質問はないか。

(意見、質問なし)

- ・ それでは、他に意見等がないため団体との懇談会の開催結果及び今後の取組についての協議を終了する。
- ・ 次に、(2)まちづくりフォーラムについて協議する。柿崎区地域協議会は、毎年2月から3月にかけて、まちづくりフォーラムを開催してきた。地域協議会の1年間の活動を住民に理解していただくことが目的である。まちづくりフォーラム開催にあたっては、実行委員会を立ち上げて開催日時や内容を検討する。
- ・ その実行委員会のメンバーは、前回同様に地域協議会だより編集委員以外の委員からなっていていただく。金子委員、小関委員、坂木委員、佐藤達弥委員、中村副会長、山川委員と私の7名が実行委員になる。よろしいか。

(「はい」の声)

- ・ 事務局に聞くが、1回めの実行委員会の開催時期はいつ頃になるか。

【大場副主幹】

- ・ 次回の地域協議会が10月15日に予定されているので、10月上旬までをお願いしたい。

【吉井会長】

- ・ 了解した。事務局から開催の案内文書が届くので、7名の実行委員は参集願いたい。
- ・ 委員の皆さんから意見、質問はないか。

(意見、質問なし)

- ・ それでは、自主的な審議を終了する。
- ・ 次に、次第5その他(1)会議の開催日程について、事務局から報告をお願いする。

【長井班長】

- (1) 第3回柿崎区地域協議会だより編集委員会について説明。
- (2) 第6回柿崎区地域協議会について説明。

【吉井会長】

- ・ 次に配付物について、事務局から説明をお願いする。

【長井班長】

- ・ 上越市男女共同参画推進センター 各種講座開催の説明。

- ・特定非営利活動法人マミーズ・ネット法人化 20 周年記念事業 子育て支援シンポジウムの説明。

【吉井会長】

- ・その他で皆さんから何かないか。
(なし)
- ・それでは、地域協議会をこれで閉会とする。

【中村副会長】

- ・地域協議会の閉会を宣言。
(午後 8 時 12 分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。